

ISO/IEC WG21 (IT Asset Management/IT資産管理)
WG 2 1 国際会議出席報告書

2017年5月24日

委員会名：SC7/WG21

報告者氏名（富士通）：高橋快昇

1. 開催場所：クアタム（マレーシア）

2. 開催期間：2017.05.15-2017.05.19

3. 参加国数/出席者数：

参加者 11名（5カ国、2リエゾン、2オブザーバ）、Web 10名（3カ国、3リエゾン）

参加：米（3）、英（1）、独（1）、印（1）、日本（高橋）、Web - 英（1）、米（4）、オランダ（1）。

リエゾン：SAMAC 篠田、TagVault（1）、Web - TCG（2）、BSC（1）、IAITAM（1）。

オブザーバ：中国（1）、マレーシア（1）。

4. 審議事項：

1) コンビナーからの報告

- ISO の作業指針第 8 版の変更点、WG21 のメンバーシップ&最新の変更点の報告。主な内容は、
・ 18 ヶ月開発トラックが新設された、
・ NWI は P メンバーの 2/3 の賛成が必要（7 版までは過半数）、
・ DIS 投票では全コメントに回答すること、
・ 通知単位を月から週に変更 など
- - 2 の Ed2 DCor1 が登録されたこと
- - 1 の 3rd 版及び - 4 の WG21 内作業が終了し、IS を待っている状況であること。
- コンビナーの交代 秋の interim 会議からは、Ron Brill に交代する。 など

2) 19770-1 : 3rd (Requirements) の状況

- DIS 投票で反対がなかったこと、コメントへの対応が WG21 の 3 月の Web 会議で承認され FDIS をスキップし、4/11 に ISO に提出。現在 WG21 の手を離れ、ISO の 2 ヶ月レビューの後発行される。
- 今後の普及のために OWG メンバが更新され、Davit Bicket に代わり、Peter Beruk(UK)が開発グループに加わり、高橋、篠田、Peter で推進することになった。(N1692)

3) 19770-2 (Software identification tag) の状況

- SWID タグの認証と SWID タグのライフサイクルを説明したガイドラインが Tagvault から掲示されている（レビューは 6/22 まで）。また、MITRE は、デジタル署名の α 版を開発中。TagVault から間もなく電子署名ツールがリリースされる。GSA は米国ソフトウェア（特に DoD）用の SWID タグリポジトリを開発している。
- TCG (Trusted Computing Group) の「SWID Message and Attributes for IF-M」や IT 業界の企業が協力してシステム管理標準を開発している DMTF の「Software Entitlement Working Group Standard」<https://www.dmtf.org/standards/sewg> は - 2 の 2009 版で各種ガイドを作っているが、2015 年版にするように進める。
- Tag でのリーディングカンパニーは IBM で 2015 年以来メインフレーム (z/OS) 以外の全ての製品に Tag (2015 年版) を付与している。現在は - 4 に取り組んでいる。

4) 19770-3(Entitlement Schema)

- John Tommy & Mary Barr により、- 3 に利用方法について定義例の紹介があった。具体的には次のような事例；・複数権利の定義、・1つのデバイスにインストール制限のあるライセンス、・コアプロセッサライセンスの定義、・ライセンス、・利用場所制限、・ライセンス業者との追加権利、・利用頻度と期限の権利、・権利の譲渡に置けるユーザ企業とパブリッシャーの取引など (N1688)

5) 19770- 4 (Resource Utilization Measurement)

- DIS 投票で反対がなかったこと、コメントへの対応が3月のWG21のWeb会議で承認されFDISをスキップし、4/10にISOに提出。現在、WG21の手を離れ、ISOの2ヶ月レビューの後発行される。
- IBM製品をサンプルにして- 4適用の例を検証中。- 2、- 3との連携も確認中。

6) 19770-5 (3rd)

- 承認という用語に対して“authoriz”と“approv”のどちらを使うかで議論があった。どちらも大して違いは無いがIT業界では“authoriz”が優勢なように見えるとISMS、ITMSMの分析から報告された。しかし、SEVOCABに“authoriz”の定義はなく、“approv”はISO/IEC/IEEE 15289:2015に定義がある。19770-1:3rdでは、“authoriz”を使っているなのでこの辺を考慮して- 5 : 3rdで明確にする。(N1659 & N1665)

7) 19770-6(Device Management)

- デバイス管理のための規格として-6 Device Identificationが始まる。秋のInterimまでにイニシャルドラフトを作成し、2018.02.28までのNWIPを行うことが決まり、Eric Chiuがエディターになる。
- 興味のある団体は、ICEE (ITAM in a Cloud-Enabled Environment) のOWGに参加すべき(N1694)。

8) 19770-8(Guidelines for Mapping of Industry Practices to/from)

- 日本は、当規格を作ると新しい規格が出るたびにMappingの規格を出さなければならなくなるので、つくるなら、規格の附属書でいいのではないかとということで反対投票をNWIPで行った。このコメントを考慮し、当面、対象を現状の19770-1:2012からのMappingのみにすることに変更された。
- 「SAMAC」へは、19770-8のフォーマットで19770-1:2012とのマッピングを作成することが要請されており作業を継続する。「PROZIN ITAM framework」はRamesh Jainがマッピングを行う。「IAITAM Best Practice Library」については、意思があるかどうかをJan HachenbergerがIAITAMに確認する。ITILとのマッピングについては、Ronが行う。

9) 19770-11 (Guidelines for Auditing IT Asset Management Systems)

- 元々、「Guidelines for the application of ISO/IEC 19770-1 for small organizations」であったが監査の為のガイドラインとして定義し直された。これに伴い、- 5の3rdでは、旧- 11に関する記述を削除する。また、新- 11の初期ドラフトをエディターはコンビナーへ送付しNWIPを申請する。

10)その他決定事項

- Web の Q&A のレビュー依頼があった。(N1668 & N1669) また、Vicky, Warren, Eric, Ramesh, Roger, Ron and Pete Larkin で Web サイトを運営するチームを新たに作成する。
- 6 月 30 日までにマーケット分析とコミュニケーション計画についてのコメントを送る。(N1674、N1673)
- 現在の WG21 Strategic Plan N1690 (Rev 10.1)が 5 年計画 (N1667) 、コミュニケーション計画などで修正された点を、2 週間のレビュー期間を置き、公開する。N1690 文書を確認すること。
- 各標準のコミュニケーションキット初版ドラフトを作成する。担当は次の通り、19770-1:Yoshinori, Jintaro & Eric、19770-2 : Michael、19770-3 : Jason、19770-4 : Roger。
- スタディグループ (SG) の設置 : CRI (Competency Requirements for ITAM) ITAM の為の力量要件(N1695)、ICUE (ITAM in a Continuously Updated Endpoint Environment) 絶えず更新されている環境での ITAM (N1693) 、ICEE (ITAM in a Cloud-Enabled Environment) クラウド、組み込み環境での ITAM (N1694) の OWG が新設された。興味ある団体は 6/30 までにコンビナーに連絡する。

11)リエゾン報告

- IAITAM (IAITAM の Pat Cicala から IAITAM の概要説明があった。)
- SAMAC (篠田さんが、SAMAC の全体紹介と ITAM World 2017 の紹介を行った。別途報告)
- BSC (Warren Weertman から概要の報告があった。)
- TCG (Charles Schmidt と Dave Waltermire から TCG の概要と企業、政府、顧客の要望事項の報告があった。 - 2 のタグとのからみでガイドを作成している。)
- TagVault (Michael Godsey からタグの推進状況の報告があった。)

5. 今後の開催予定

- Interim Meeting : 2017-10-6~10 Washington, DC (確定)
- Plenary Meetings : 2018-05-6~11 Delhi,インド (確定)

以上.